

大学院保健科学院の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー（CP））

大学院保健科学院保健科学専攻は、学位授与方針に定めた能力を持つ人材の育成を目標として、専門性の高い科目群と領域横断的で学際的な科目群を開設し、複数教員による研究指導体制のもと、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

また、高い教育の質を保証するため、FD委員会の企画の下、教員の教育資質を高める教員研修への参加を促すとともに、教務委員会および学生委員会の活動を通し、学修や進路相談等の学生支援、教育制度の評価により制度改革を持続的に進める教学評価を実施します。

学習成果の評価の方針

I 成績評価の基準

1. 成績評価にあたっては、本学院の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる本専攻の「養成する人材像に求められる具体的な能力（学位授与水準）」を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の学修成果の達成度に応じて行います。
2. 本専攻における授業科目では成績分布の目安は示しません。
3. 授業を実験・実習又は研究で行う科目に限り、「合・否」で成績評価を行うことができることとします。
4. 授業科目ごとに適切な「到達目標」が設定されていることと、それに基づく成績評価の結果を、学期ごとに成績評価専門委員会で検証し、必要に応じて責任教員に「到達目標」の再検討を依頼します。

II 成績評価の方法

1. 成績評価は、試験結果、レポート評価、成果発表（プレゼンテーション）、学修態度等により行います。
2. 授業への出欠状況を単に点数化し評価に用いることはありません。
3. 具体的な評価方法は、責任教員が定めることとします。

「修士課程」

- 保健科学の幅広い領域に対応できる知識・技術およびその能力を修得するため、高度で基盤となる専攻共通基礎科目を開講します。
- 保健科学分野に関する高度の専門性や実践力を身につけるために必要な科目群を開講します。
- 保健医療分野で国際的に貢献するために必要な知識・技術および実践力を修得するための科目を開講します。
- 主任指導教員と副指導教員が複数で学生を指導する体制を1年次末までに整えます。

- 2年次前半に修士論文研究および特定課題研究の中間報告会を実施し、指導教員以外にもアドバイスすることで、優れた修士論文研究および特定課題研究を支援します。
- TA業務等を通じて、様々な職業で必要となる教育力の向上を図ります。

「博士後期課程」

- 自立した研究者に必要となる問題解決力と論文作成方法を取得するため、各科目群において特別研究を開講し、博士論文研究を支援します。
- 主任指導教員と副指導教員が複数で学生を指導する体制を1年次末までに整えます。
- 博士後期課程の中間発表会を実施し、指導教員以外にもアドバイスすることで、優れた博士論文研究を支援します。
- 高度なTA・RA業務等を通じて、大学あるいは保健科学の研究開発の場で必要となる優れた教育力とプロジェクト遂行能力の向上を図ります。